

特定非営利活動法人
日本リザルツ

平成29年度 事業報告書

日本リザルツ
平成30年3月5日作成

01
JANUARY



2017年01月01日

【謹賀新年】エスンバ村より

新年明けましておめでとうございます。エスンバ村からスワヒリ語で
Heri Za Mwaka Mpya!! (あけましておめでとう)。

私はここエスンバで新年を迎えた。2017年がここから始まるとは、1年前には全く想像しなかった。私が取り組む「スナノミ症」はエスンバで多くの人を苦しめているので、今ここから離れることはできない。私にしかできないことがあるから。そのため、私は「スナノミ症」の治療を行うためのクラウドファンディングを立ち上げたので、皆さまご協力ください。



2017年01月05日

旅便り vol17 "Essumba 特集 10

先日(2017年1月4日)から公立・私立ともに学校が始まり、エドワード家の3人の子どもたちもカカメガに行ってしまい、エドワードと2人暮らしとなった。ここ数週間、チャリティー(エドワードの妻)と子どもたちがいて、賑やかワイワイ、夕方家に着けば夕食が準備されているという、ぬくぬくとした生活が続いていた。「男ふたりでもどうにかしなきゃな」と、昨日今日と、朝一で火を起こし、ケニアのティーを作っている。昨年12月、国会議員のあべ俊子先生、秋野公造先生がエスンバを訪れてくださった。その際に、あべ先生、秋野先生の迅速な判断で、町の病院へ緊急搬送された18歳の女の子についての最新情報を届けする。彼女の名前はドーカス。5人兄弟の長女で、エドワード家の近くに住んでいる。お父さんは慢性的な栄養不良からか体が弱く仕事をしていない。半年前にお父さんが同じ症状になり、チャリティーの治療によって回復した。また、ドーカスも11月に似たような症状に陥り、チャリティーが治療した。その後、チャリティーから「ずいぶん良くなっている。」と聞き、安心していたが、チャリティーが持っていた薬が底をつけ、町の薬局も閉まっているため治療を続けることが困難になっていた。12月20日、国会議員の先生方の視察の際には、さらに深刻なひどい状況だった。あべ先生の「放っておけば死ぬかもしれない。」との言葉が今でも頭に残っている。また、秋野先生に「エスンバで義足で生活するのは難しい?」と聞かれたことも忘れられない。その日のうちにエスンバから乗合バスで20分程度の私立病院のCoptic Hospitalに入院させた。その後数回見舞いに行った。足はずいぶんと良くなっていた。エドワードによれば、チャリティーが以前使っていたのと同じ薬を使用しているよ



うである。「足を切断はする必要はないでしょう」との担当医師の言葉に、エドワードと一緒に胸をなでおろした。

本日(2017年1月5日)、退院するので病院に行く。担当医師によれば、何かの傷口から菌が入り込んだことが原因のようだ。ドーカスは以前、スナノミ症に罹っておりその傷口から入り込んだとも考えられる。私が立ち上げたスナノミ症の治療・予防を行うプロジェクトでは、傷口を保護するためにワセリンを塗っている。



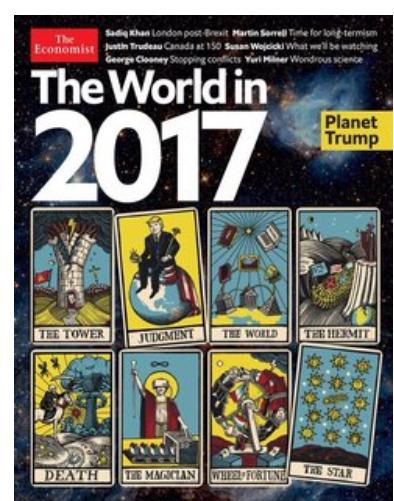
世界へ羽ばたけ！Omamori Book(おまもりブック)

去年、熊本市で人気を博した子ども用の防さい小冊子「おまもりブック」。海外の皆さまとの打ち合わせなどで、日本リザルツの取り組みについて説明する際、おまもりブックの話題になると、「とてもおもしろそうな内容だけど、おまもりブックにはどんなことが書いてあるの？」「英語に翻訳する予定はないの？」というお声をよくいただいていた。また、おまもりブックを手にされた小さなお子さんがいらっしゃるお母さま方から、「英語版があれば、英語の勉強と防さいの勉強が一気にできるからしてほしい！」といったご要望をいただくこともしばしば。そこでただ今、日本リザルツは、おまもりブックの翻訳を進めている。楽しんで英語と防さいについて学べる、そんなブックにしたいと思っている。完成までもう少しかかるが、ご興味を持たれた方はお気軽にお問合せを。



イボンヌ・チャカチャカさん、The Economist に掲載！

南アフリカの歌手、アフリカ国連MDGs特別大使や釜石市のふるさと応援大使などとして、幅広い分野で活躍されているイボンヌ・チャカチャカさんの寄稿文が、The Economist が毎年発行している「The World in 2017」に掲載された。「2017年は、特に教育、保健、公衆衛生分野へのアクセスにおいて、“変化(Change)”を起こす年に！」と訴えるイボンヌさん。アフリカにおける男女間の障壁について触れたうえで、「国連の開発目標 SDGs を達成させるためにも、若い女性の才能や活力を取り込んでいかなければならない」と言う。記事の全文は Web にも掲載されている。スタッフ一同、本年も思いやりのある世界を目指して、邁進していく。



[Q&AAA（トリプルエー）+プロジェクト、靴続々届く](#)

三が日も終わり、日本リザルツオフィスにやってくると宅配会社から大量の小包が届いた。

Q&AAA（トリプルエー）+プロジェクトに関するYahooニュースを見て下さった全国各地の方々からの運動靴だ。ご協力に感謝感激だ。日本リザルツでは、今年も、きれいに洗った運動靴を集めている。皆さんの一足がケニアの子どもたちの命を救うので、是非応援をお願いしたい。



2017年01月06日

[\[ニュース\]ケニア視察の様子が公明新聞に掲載](#)

昨年12月18日から、日本リザルツの代表白須と長坂が、衆議院議員あべ俊子先生、参議院議員秋野公造先生とともに行ったケニアへの視察について、秋野公造先生が寄稿された記事が公明新聞に掲載された。スナノミ症患者の治療も実際にされた先生方。医師としてのご経験を踏まえ、視察の成果と今後の課題について述べられている。

秋野先生はケニアのクレオパ・マイル保健大臣とも面会され、ケニアの医療体制向上やスナノミ症抑止に向けて意見交換をなさった。スナノミ症は最貧困層の病。誰一人取り残さない・思いやりのある社会を目指すために対策が必須だ。今回の視察がきっかけで、抑止に向けて、産学官が連携して取り組みが進むことを願う。



ケニアの医療現場を視察して
スラム街で靴などのお世話を訪問する秋野公造
「スナノミ症」の克服を
手記 秋野 公造

[旅便り vol18 "Essumba 特集 11"](#)

私とエドワードで実施しているクラウドファンディング。

私が住むケニア最貧困地域"エスンバ村"ではスナノミ症が大きな問題になっている。今回のブログでは、"現地の声"をお届けする。





彼はエドワードが支援する村民の中で最年長でスンバで独り暮らしの67歳。スナノミ症にかかり、足を動かすことができないため仕事をすることはできず、椅子に座り毎日を過ごしている。



「エスンバでスナノミ症は日常だ。エスンバは農村なので、農業従事者は足が動かなくなると農作業ができない。川まで水汲みにも行けない、生活ができない。致命的だ。」「そうなると何もできない。」人”が”人”じゃなくなっている。私もエドワードに助けてもらっていたから今こうして喋っていない。救ってくれたのも”人”だった。」と涙ながらに話してくれた。

最後に、こう言っていた。「のりこさん、この前は会えなくて残念でした。初めて会った時、あなたが天使のように見えた。また会いましょう。」

「1人ひとりに世界を変えていく力がある」。私ひとりの力は小さく弱いが、集まれば大きなムーブメントを起こせると私は信じている。

2017年01月07日

旅便り vol19 "Essumba 特集 12

私が住むエスンバ村が抱える問題のひとつに"医療機関へのアクセスが難しい"ことが挙げられる。エスンバ村には病院がなく、最寄りの公立病院まで乗合バスを乗り継ぎ1時間程度かかる。さらに、2016年12月5日からケニア全土の公立病院に勤める医療従事者がストライキに入っている。ストライキ開始から1ヶ月以上経つが、いまだ



にケニア政府と医療関係者の労働組合の話し合いが続いている。昨日のラジオで労働組合の代表者が「保健大臣と私たちが4時間話し合ったが、全くの無駄だった」と発言していた。

私のブログに数回登場しているこの方は結核で弟さんを亡くされた方で、本人にも結核の疑いがある。この方が公立病院を訪れた際には、医師が薬のリストを書き、渡しながらこう言ったそうだ。「街の薬局、私立病院に行けば薬が買える。キスマの私立病院に行けばX線が使えるだろう。」さらに、問診代500Ksh(約500円)を請求された。500Kshは彼にとって1週間生活できる大金だ。薬は計8,000Ksh、私立病院でのX線は2,000Ksh。さらに入院をすれば、1日当たり1,000Ksh。彼が払える金額ではない。



以前紹介したスナノミ症で入院した少女、ドーカスの母が、

「朝食は、バナナ1本と紅茶1杯が10時にならないと出てこないし、看護師さんが毎日薬を持ってきてくれたが、私が毎日あげていた。昼食は日によっては出てこないこともあった。ベッドのマットレスも変えてもらったことはない。」「それでいて1日当たり1,000Ksh。高すぎるが払わないと退院させてもらえない。隣のおじいさんは70,000Ksh請求されている。逃げたいが体が動かせない。この病院はビジネスをやってるよ」。私がこの話を聞いたのは昨年の年末。それからはエドワード家から、綺麗なマットレス、大きなポットに入れた紅茶、大きな食パンを何回も持つて行った。ある看護師さんは、「今がビジネスチャンスとばかりに値上げしている。公立病院がストライキ中で患者がたくさん来るからね。上の連中は毎日ニュースを見ているが、それはストライキが続いていることを確認しているんだよ。」と話してくれた。今、私ができることは「現地の声に耳を傾け、その声を発信すること」だと考えている。



2017年01月08日

ガザの人口飽和が問題に

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしている。本日付の読売新聞朝刊に深刻なニュースが取り上げられていた。

以下、抜粋部分を紹介する。「ガザ過密 生活危機パレスチナ自治区のガザで、人口が200万人を超えたそうです。パレスチナはイスラエルによる経済封鎖を受けていて、

パレスチナ人がガザから出ることは制限されているため、人口が過密になる一方です。琵琶湖の約半分にあたる面積360km²に、札幌市の人口にあたる200万人が暮らしているそうです。平均失業率は41%、人口の8割が食糧援助に頼らざるを得ないそうです。毎月1500人のペースで出産を手掛けるガザの病院では、保育器



を代わる代わる使わなければならぬようです。このままのペースで人口が増えると、2020年には「居住不能」になると国連が警告しているそうです。しかし、ガザの人はイスラエルの許可なくガザ外には出られないし、許可が出るのは病気やけがなどの緊急時のみ。天井のない監獄といわれています」。天井のない監獄、ガザ。この状況を開拓しようと、日本でも取り組みが進んでいる。それが、「Japan Gaza Innovation Challenge」だ。

失業率が世界有数のガザで、若者の起業を促し、雇用促進につなげるプロジェクトだ。発起人の上川路文哉さんは民間企業で仕事をしつつ、ライフワークとしてガザの人たちの起業支援をしている。ガザの人々が希望を持って生活を送ることができるよう、日本リザルツも上川路さん、そしてUNRWAの活動を応援していく。

釜石生活㉖ ~雪の結晶~

最近は、朝、車のフロントガラスが、バキバキに氷っているか、写真のように雪の結晶が付着しているかのどちらかであることが多いのですが、目覚めた瞬間のお部屋の冷え具合と乾燥度合いで「今朝はバキバキっぽいな。5分早めに車のエンジンかけなきゃ」などと予測できるようになってきた。仙人峠に住んでいるだけあって、だんだん感覚が鋭くなり、仙人化してきたのかもしれない。さて、この結晶についてだが、その日によって大きかったり小さかったり、形も、基本はいつも六角形ですが微妙に違っていたりする。それもそのはず、雪の結晶は35種類だととも、41種類あるともいわれている。そして、結晶の形を決める条件は、上空の大気の「温度」と「湿度」で、「湿度」が高いと複雑な形となり、低いと柱状や板状のシンプルな形になるということだ。でも分子レベルでは二つとして同じものはないという、結晶のロマンも感じつつ、朝の慌ただしさの中、フロントガラスにエアコンの風を強にして吹きかけ、結晶を溶かしてしまうのだった。願わくば、冷凍室に保存して、35種類集めてみたいものだ。あれ？でも、冷凍室内の温度と湿度で、いつの間にか、同じ形になってしまうのか。



2017年01月09日

釜石生活㉙ ~年の初めにあたり~

年末年始を東京近郊で過ごし、1月3日に釜石に戻った。いろいろな方が相談室に新年のご挨拶にお立ち寄りいただき、うれしい仕事始めとなった。12~13名の方に、初詣先を尋ねたところ、半数近い方が「観音様に関わる回答をされた。そこで、私も、行ってみた。いつも後ろ姿しか見ることができないので、前から見上げて「鯛を持っていると聞いていたけど、大事に抱えていたんだ…」などと思いながら写真を撮ったら、ちょうど、雲の切れ目からのぞいた太陽と重なったようで、まるで後光が差しているような、新年にふさわしい縁起の良い感じの写真になった。

世界中で、様々な問題が解決に向かい、困難は打破され、苦労は報われ、心ひとつに進んでいける、そんな年となりますようにと祈った。



2017年01月09日

釜石生活㉚ ~1月の催し~

1月の催しについては後半に3つのイベントを開催する予定だ。雪などの影響が出ませんようにとお祈りしている。参加したい方にちゃんと情報が届き、シンプルな方法で申し込みができるように、子ども課の係長と主任とあれこれ考えた。

一人でも多くの方の目に留まり、お近くならご参加いただき、宮城県、福島県の方なら「わが県でも開催したい」と招致いただいたり、その他の地域にお住まいの方には、現在の被さい地の動きに关心を寄せていただけると幸いだ。

2017年01月10日

ガザの夜明けはいつ

中東紛争の地パレスチナ、余りにも長きに亘り一般市民を犠牲にしてきたガザでは、自由を奪われた上にまともな医療体制もなく、子どもたちは生まれながら人間らしい扱いをされていないと言っても過言ではない。そんな境遇を少しでも打破すべく、リザルツは医療器具の供与実績を上げ、更に技能研修までを展望した考えを持って実現に向け頑張っている。パレスチナの問題は依然として益々深刻だ。

青葉通りこどもの相談室
1月の催しのご案内

1. 子どもの気持ち 学習会(Ⅱ)

日時：2017年1月21日(土)
14:00～16:00
場所：釜石市立図書館
内容：ストレスを抱えた子どもの気持ちを、児童心理学に基づいて講義します。
対象：子どもの保護者、関係者
※ 第二回は、3月4日(土)14:00～16:00
の予定です。
※ 講師有

2. 子どもの発育 相談会

日時：2017年1月28日(土)
14:00～16:00
場所：釜石ビーンズ
内容：子どもの発育と健やか成長を第一に考え、法的なアドバイスをします。相談料は無料。予約制で相談時間は1人・1組30分程度となります。
2/9(日), 3/10(日)も開催予定です。

3. 支援者研修会(Ⅰ)

日時：2017年1月21日(土)
10:00～12:00
場所：青葉ビル 青葉会館2
内容：ストレスを抱えた子どもの気持ちを理解するための方法を学ぶから、子どもに寄り添ひる職業の方はぜひご参加ください。
※ 第二回は、3月4日(土)10:00～12:00
の予定です。

参加申込み・問合せは、
下記へお出で下さいます。
070-2923-2988

この催しは、多くの人に見てもらいたい、
社会貢献活動の人日本アカデミーが実施します。
青葉ビーンズは社員が作ります。正味の大半の収益は、釜石大病院奉賛(海苔)を
ご利用で下さい。

1と3の講師
石垣 秀之 先生
臨床心理士、国家公認心理士、EMDR(一級)、臨床心理
心理士、心理リハビリティ
アセスメントバイダー、
行政書士、税理士、
Rie produce 代表取締役

2の担当弁護士
加藤 静香 先生
釜石いまりの相談室
TEL: 070-2923-2988

2017年01月10日

くまモン塗り絵の輪広がる（ラオス編）

日本リザルツで始めたくまモン塗り絵がどんどん広がっている。

今日は、ラオスの子どもたちの塗り絵の様子が届いた。



ラオスで教育普及活動を行っている団体、「特定非営利活動法人ラオスのこども」にご協力いただいた。

2017年01月11日

Q&AAA+プロジェクトの勢い止まらず！

日本リザルツでは、Q&AAA（トリプルエー）+プロジェクトと題し、国会議員の先生方、中央官庁の方、そして市民のみなさまから広く運動靴を集めている。今日はスタッフ総出で、シューズの整理を行った。Yahoo! ニュースにも取り上げられ、それを見て下さった全国各地の方々から、運動靴が届いている。こんなにかわいらしい靴も！

ご協力して下さった皆様、本当にありがとうございます。日本リザルツで責任を持って、アフリカの子どもたちに届ける。



ちに届ける。

2017年01月11日

つなみ募金

本日、毎月恒例のつなみ募金を経済産業省の前で行った。あの東日本大震災から、あと2か月でもう6年になる。今日はリザルツ新聞、「子どもファースト」離婚講習会のお知らせ、UNRWAのパンフレットを配った。寒い日だったが、お昼時でもあり、暖かい日差しの下での活動となった。



2017年01月12日

ケニアからのラブレター

昨年12月18日から、日本リザルツの代表白須と長坂は衆議院議員あべ俊子先生、参議院議員秋野公造先生とともに、ケニアへの視察に行ってきた。

折しも、スナノミ会議の日に現地NGOのエドワードから一通のラブレターが届いた。

以下、英文と訳文を紹介。

Hi,

I am extremely delighted to express my sincere gratitude and that at the Essumba people to you for the great honour you extended to us by visiting our country Kenya, Vihiga county, Essumba community and my family at large. Thank you for the spirit of love and generosity you showed by treating patients suffering from jiggers and donating shoes to them.

Thank you also for taking your time to visit homes of the people suffering from various ailments and poverty. The people of Essumba and my family will never forget you, welcome again.

Edward Khatili



ノリコさん、ユウコさん、

今回視察を企画し、エスンバ村を訪れててくれてありがとう。そして、靴まで届けてくれて、本当に嬉しく思っているよ。また、会える日を楽しみにしているよ。

エドワード

現地で頑張っているエドワードや元インターの白石のためにも、スナノミ症に向けた取り組みが加速することを願っている。

2017年01月12日

スナノミ会議開催！

昨年12月18日から、日本リザルツの代表白須と長坂は衆議院議員あべ俊子先生、参議院議員秋野公造先生とともに、ケニアへの視察に行ってきました。視察を踏まえて、本日、スナノミ会議が開かれた。

国会議員、関係各省庁、国際機関、企業、有識者、そして学生など、さまざまな分野から多くの参加者が集まつた。

司会は、国際感染症対策調整室・新型インフルエンザ等対策室の田中剛企画官。



はじめに、衆議院議員輿水恵一先生からご挨拶をいただいた。

先生は公明党 SDGs 推進委員会に所属されている。

誰一人取り残さない社会の実現に向けた公明党の取り組みと、スナノミ会議開催の重要性について触れられた。現地エヌバ村とスカイプをつなぎ、スナノミ抑止に向けた取り組みを行っている白石陸さんからも挨拶があった。最貧困層の病スナノミ症について、1人でも多くの方に知ってもらいたいと会議開催を喜んでいた。続いて、ケニア視察を行った参議院議員秋野公造先生から報告がありました。



秋野先生は医師。ご自身の知識をもとに詳細な報告と見解を発表して下さった。

Q&AAA（トリプルエー）+プロジェクトのメインサポーターである厚生労働省健康局結核感染症課の浅沼一成課長からも、コメントをいただいた。



外務省国際協力局国際保健政策室の日下英司室長からは、貧困が原因となる病気をなくすために、相手国政府への働きかけが重要であるという見解をいただいた。



同じく視察を行った衆議院議員あべ俊子先生は、地域のコミットメントの大切さについて触れられた上で、国會議員がしっかり現場に行き、生の声を拾うことが重要だと発言された。最後に、白石さんに3人の国会議員の先生方からエールが送られた。

2017年01月12日

あと14年で「世界から貧困を無くす」ために（日経ビジネス）

日本リザルツで以前からお世話になっている、グローバルファンドの國井さんが国連の開発目標 SDGs について、日経ビジネスで書かれていた。

2017年1月11日（水）

終わりなき戦い

あと14年で「世界から貧困を無くす」ために

新たな開発目標が示す「グローバルからプラネットへ」の道筋

國井 修

今年は、SDGs が施行されて 2 年目となります。日本でも昨年に安倍総理を中心に「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部会合」が発足され、「SDGs 実施指針」が策定されました。誰一人取り残さない、思いやりのある社会に向けて、少しずつ動きが出てきていますが、2030 年までの目標を達成するにはまだまだ努力が必要です。「世界全体としてみると、未だに約 8 億人が極度の貧困の中で生活し、約 2 億人の子どもが急性または慢性の栄養不良を示している。予防・治療可能な病気により毎日約 1 万 6000 人の子どもたちが、5 歳の誕生日を迎える前に命を落としている。6 億人以上が未だ安全な水を飲めず、24 億人が衛生的なトイレを使えていない。これらが主な原因として起こる下痢症で死亡する子どもは 1 日 800 人にも達する。エイズ、結核、マラリアなどの感染症の現状もこれまで拙稿で述べてきたが、有効な治療や予防がありながら、これらによる死者は毎日約 9000 人、新規患者は毎日 60 万人以上に及んでいる。その意味では、まだ MDGs はまだ終わっていない、未解決のアジェンダ（Unmet agenda）ともいえる。」（記事本文より）

國井さんが記事の中で詳細に説明されている。



2017年01月12日

Q&AAA+プロジェクトの勢い止まらず！ part2

昨日、皆様から届いたシューズを整理していたところ、お手紙もたくさんいただき、大変心が温まった。

優しい人ばかりだ…とても素晴らしいと心がほっこりした。この思いがケニアに届きますようにと願う。

みなさんの一足がケニアの子どもたちの命を救うので、是非、応援を宜しくお願いします。



4年ぶりのケニア

久し振りにケニアの地にやってきた。4年前は前職の活動地が地方にあったため、割とのんびりした人々の生活が浮かんでくるが、今回はナイロビのスラム地区で結核予防・啓発活動の支援を行うものだ。街中は人と車で溢れ、道路工事はあちこちで実施され、活気を感じる一方で、人口増に伴う衛生環境や感染症の拡大は、更に貧富の格差を生み出しているのではないかと思う。気付かぬうちに感染症にかかり、他人に伝染させているかもしれない恐ろしい事態を回避するため、まずは現地の住民への啓蒙活動とできる限りの支援に力を入れていきたい。必要とされる保健サービスを全員が受けられる日が来るまで活動は続く。次の4年後には、少しでもその状態に近づくように…

2017年01月13日

フォローアップ会合打ち合わせ

来週月曜から始まるコミュニティ・ヘルス・ボランティア(CHV)のフォローアップ会合に向けて、本日講師の方々と打ち合わせを行った。



フォローアップ会合では、以下の4点を中心にCHVの方々と話し合い、活動をサポートしていく予定だ。

- ①月に何件の世帯を訪問し、その中で何人の結核患者を見つけることが出来たか、といった研修後から現在までのCHVの活動の総評
- ②CHVが活動の中で直面している課題についてのディスカッションと発表
- ③毎月提出する報告書の書き方に関するレクチャー
- ④研修時に作成したワークプランの目標を達成するために必要なことを考えるグループワーク

CHV の活動のモチベーションを維持するためにも非常に大切な会合になるので、限られた時間の中で少しでも充実した話し合いが出来るよう、しっかりと準備していきたい。

2017年01月13日

栄養関連会議

本日は、アジア人口・開発協会（APDA）さんの事務所で、栄養関連の会議を行った。参加したのは、APDAさんと栄養4銃士（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、栄養不良対策行動ネットワーク、日本リザルツ）。

議題のひとつは、2016年世界栄養報告日本語版の報告会について。今年も着々と準備を進めているので、楽しみにしていただきたい。世界栄養報告は、栄養改善に対する課題や取組みの進捗、政策提言についてまとめられたもので、2014年から毎年発行されている。現在、2016年のレポートについては、要約のみ日本語で入手可能。一言に"栄養改善"と言っても、そこには食料安全保障や気候変動、水・衛生など様々な問題からのアプローチがある。



本日はそのような観点から、いつもの栄養4銃士だけではなく、APDAさんと一緒に話し合いを行った。2016年世界栄養報告においても、栄養についてより多面的に捉えることの必要性が書かれているが、私たちもNGOや企業、政府、学術機関などと効果的な連携を深めていきたい。

2017年01月13日

“スナノミ会議を終えて”

昨日(1月12日)開催された、「(第1回)スナノミ会議」(今後、定期的に開催していただきたいと期待を込めて、「第1回」)にスカイプで参加した。ご参加いただいた方々、ありがとうございました。

今回は、①私がなぜケニアにいるのか、②スナノミ症に取り組むようになったきっかけ、③エスンバ村で何をしているのか、④スナノミ症を含めて、認知度の低い感染症の現状やそれらに対する支援の必要性、こうした感染症に対する関心や支援を喚起するためのアイディア。



以上4つを自己紹介を交えて以下に私なりにまとめてみた。

私は第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)に出席後、ケニアの最貧困地域エスンバという農村に住んでいる。エスンバとの出会いは2015年の夏であった。

大学に入学した私を待っていたのは、たくさんの出会いだった。その中で最も重要な出会いは「国際協力」という分野だ。「困っている人を助ける、なんて素晴らしいのだ」と単にそう考えていたのだろう。しかし「習ってノートに書くことが誰のためにになっているのだろう。自分で何かしなくては」とふと考えた。そして思い

立ったのがボランティアだった。行き先はなんとなく選んだ。そして大学1年2015年の夏、ケニアを訪れた。初のアフリカであった。

しかし思っていたボランティアと違い、それは少し変わった学生旅行であった。エスンバで遊んで3週間を過ごし、サファリで動物を見ただけだ。情けない。「必ず戻ってくる」そう誓った。これがエスンバとの出会いであり、人生の分岐点となった。

そして私は休学し2016年の夏、エスンバに戻ってきた。エスンバが抱える問題は多い。医療施設なし、水道インフラなし、HIV/AIDS、結核、マラリア、コレラ、そしてスナノミ症などで人が亡くなる。ケニア政府は「Kenya vision 2030」なる目標を掲げるも、財政難(と政府は言っている)で進んでいない。

エスンバが抱える問題の1つに「スナノミ症」というものがある。砂の中に棲むノミが寄生し体内で成長し、最悪の場合手足を壊死させる、寄生虫型皮膚疾患だ。エスンバは農村だ。農業従事者にとって足が動かなくなると農作業ができない。川まで水汲みも行けない。生活ができない。致命的だ。私はこの問題に全力で取り組もうと決意した。この病は東アフリカ、南米の農村部、スラムでは多くの人々が苦しむ。しかしさっと見たところ、スナノミ症に対し活動を行うのはケニア国内の小さなNGOだけだ。正確なデータはないが、エスンバでは50%以上が感染の恐れがあり(長崎大学によると裸足のかたの感染率は88%、サンダルも4分の1)、罹患率は5%だと推測される。声を上げられない人々が苦しむ、まさに「取り残された病」だ。

私と現地住民とともにスナノミ治療と予防を行うキャンペーンを2回行った。治療は簡単だ。過マンガン酸カリウムに感染部を浸す。そしてナイフなどで感染部を削り2cm大にもなるスナノミを取り出す。その後ワセリンなどを塗付し保護する。予防といえば、ノミが寄生しないよう清潔に保ち靴を履くことだ。しかし、農業で得る少ない収入、水道インフラもなければ井戸もない、川までの水汲みは重労働。彼らは予防すらできない。せめてもと思いノミを駆除するため、薬を散布、家を綺麗に洗浄している。

累計100名を治療、52家屋を洗浄することができた。かかった費用は25万円。もちろん自腹だ。

私一人の力は小さく弱い。以前のインターン先である国際NGO日本リザルツが旗を振り応援団を集めている。リザルツの言葉を借りれば「私たち一人ひとりに世界を変える力がある」私は信じている。集まれば非常に大きなムーブメントを起こせる。

持続可能な開発目標(SDGs)のキャッチフレーズは「誰も取り残さない」だった。しかし「取り残された病」はある。それはスナノミ症だけでもない。私に残された時間はたった半年だ。

2017年01月13日

Q&AAAプロジェクト・お礼状

夕方、打ち合わせからリザルツのオフィスに戻ったところ、スナノミ担当マネージャー(いつの間にそんなタイトルが)の長坂が、肃々とお礼状を書いていた。



シューズを送ってくださった方へのお礼状だ。「えッ? 手、手書き! ?」—

人一人に手書きで宛名書きをすることは…さすが SDGs 担当者。素晴らしい心がけだ。シューズは、毎日大量に届くためまだまだ開封・整理が追い付いていない状態だが、みんなで力を合わせてケニアにシューズを、いや、愛を届ける。

2017年01月13日

【ケニア結核事業】今年度後半のスケジュール

日本リザルツがここケニアで事業を初めてもうすぐ半年が経つ。10月に結核クリニックの改修工事、11月にコミュニティ・ヘルス・ボランティア(CHV)の研修を終え、ようやく事業も軌道にのってきた。



クリニック改修工事の様子



CHV トレーニングの様子

今後は CHV の方々の活動を応援するために、フォローアップとモニタリングに力を入れていく。そのため来週にはフォローアップ会合を開催し、これまでの活動の中で出てきた課題について共有し、全体で話し合う予定だ。その傍らで、カンゲミの住民の結核に関する知識や偏見のデータをまとめたアンケート用紙の集計を行っていく。

また、3月24日は世界結核デー。結核アドボカシーのため、この日もカンゲミで大きなイベントを開催する予定だ。

MARCH 24 IS
**WORLD
TB DAY**

2017年01月14日

釜石生活㉙ ~親子交流イベント”ほめほめワーク”~

2月12日14~16時と、2月19日10~12時に、2週続けて「親子交流イベント」を行うのでバスでどこかへ行き、お弁当を食べて、親子でできるアクティビティをして時間を過ごすなど、あれこれと企画を考えてきた。しかし、真冬のこの時期、当日も、今週日本列島に到来している大寒波というような気象状況であることも想定されるため、今回は室内でできるクラフトに決め



た。

クラフトは、カラフルなシリコンゴムを編んで作るアームバンドで、はじめに作り方の動画でルールを説明。今回は、親子の絆を深める「親子交流イベント」なので、クラフトワークに親子で取り組みながら、お互いに新しいチャームポイントを発見したり、プレゼントし合うことで愛情を確認し合ったりする機会にして欲しいと思っている。その効果をもう少し強めるために、「ほめほめワーク」にする。ルールはシンプルで、ネガティブな言葉を口にしないこと、お互いによいところを見て、たくさんほめること、そして、口角を上げて笑顔で取り組むこと。ほめ合うことで親子の絆、愛着関係を深めていき、親子で取り組んでいただくことで、親御さんとお子さんの自己肯定感がアップし、自信が持てるようになる。親も子も、絆を強め、心が温かくなる時間を過ごしたい。

2017年01月15日

外務省「国際連帯税の在り方に関する有識者会議を発足」させました！！

●下記共同通信の報道にもあるように、外務省は国際連帯税の在り方に関する有識者会議を発足させ、3月中に提言をまとめる。有識者会議の座長は寺島実郎・日本総合研究所会長、座長代理は上村雄彦・横浜市大教授が務めている。



●これまで国際連帯税に関する有識者会議は、2009～2010年、2014～2015年の2回行われたが、どちらも「国際連帯税創設を求める議員連盟」からの要望だったが、今回は外務省（日本政府）が正式に会議を組織したもので、その提言は公的性格を帯びることになる（もちろん、第一次・第二次提言の内容が劣るということではない）

【共同通信】外務省「国際連帯税」で提言へ　ODA財源確保、影響力低下懸念

2017/01/14

外務省は、削減傾向にある政府開発援助（ODA）を巡り、新たな財源として期待している「国際連帯税」の在り方に関する有識者会議を発足させた。3月までに提言をまとめる。外務省幹部が14日、明らかにした。国際貢献の切り札と位置付けるODAの財源が十分に確保できなければ、日本の影響力低下を招くとの懸念がある。政府や与党に慎重論も根強く、世論を喚起したい考えだ。

国際連帯税はフランスや韓国が既に導入しており、それぞれ徴収した税金を途上国支援に充てている。国際機関を経由して後押しするケースもある。

2017年01月16日

CHV の生活

本日はカンゲミ・スラムから結核を無くすために活動されているコミュニティ・ヘルス・ボランティア(CHV)の方の生活について紹介する。



この方はモーリーさん。31歳のシングルマザーで、小さなお子さん、モーリーさんのお兄さんと3人で暮らしている。生計を立てるため、カウンセラーとしても働いているが、収入は微々たるもの。とてもそれだけでは生活していくにはない。一緒に暮らしているお兄さんも現在失業中。カンゲミで定職を見つけることは簡単ではない。そこでモーリーさんは、CHVやカウンセラーとしての仕事時間の合間に縫って、女優としても活動されている。依頼があったときに学校や教会等でお芝居をし、時には結核など健康問題に関する題材で公演することもある。CHVとしても責任感を持って活動されており、担当世帯の家族とは積極的にコミュニケーションを取っているため、すぐに携帯電話のクレジット(ケニアはプレペイド式が主流)が無くなってしまうのが悩み。モーリーさんの精力的な活動のかいもあり、11月には住民の中から陽性の結核患者を見つけ、その患者は治療を開始することが出来た。

カンゲミではモーリーさんのように、一人ひとりが自分の生活を犠牲にしてでも、コミュニティのために活動している。



2017年01月16日

[ニュース]思いやりのある社会ますます拡大！

日本リザルツは「SDGs：思いやりのある人になりたい」キャンペーンを推進している。

日曜版の公明新聞（1月15日付）に、衆議院議員の岡本三成先生、参議院議員の高瀬弘美先生、そして国連広報センターの根本かおる所長の3人がSDGsについて議論された記事が紹介された。



日本リザルツもいたる所で「思いやりのある人になりたい」運動を展開している。



思いやりのクッキー

先週、ボランティアのお姉様が差し入れに、手作りクッキーを持ってきてくださいました。

私の大好きなソフトなチョコチップクッキーと、ナツツやシリアルがふんだんに入ったナツツクッキー。朝の定例ミーティングでいただきました。ほどよい甘さでとてもおいしかった。心のこもった手作りってうれしい。



2017年01月17日

フォローアップ会合(GichagiA)

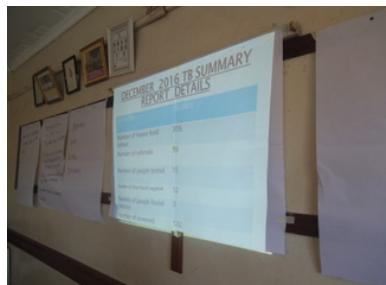
昨日から、各コミュニティ・ユニットのフォローアップ会合を開催している。本日は Gichagi A 地区。

何度も顔は合わせているが、まずは自己紹介から。この会合に期待することを全員が発表した。



その後は、これまでの CHV の活動の総評が行われた。

研修が終わってから 12 月までの約 3 か月間だが、GichagiA ではたった 20 名の CHV で 1626 名のスクリーニング(問診検査)を行った。特に 12 月の活動は目覚ましく、住民の中から結核感染の疑いがある方を 60 名病院に紹介し、その後クリニックでの検査で実際に 3 人が結核を発症していることが判明した。[このような CHV の地道な活動によって、住民の命が日々救われている。](#)



グループワークでは、結核の演劇や歌、ダンスが得意な CHV による Theater group をもっと活用すべきだという意見や、CHV 自体の存在をもっとコミュニティに周知させるべきだという意見が出た。

日本リザルツやケニア保健省のロゴが入ったバッグは、今日の会合でも大好評だった。



最後に、先日代表が日本から持ってきてくれた かりんとうを CHV の方々にお配りした。日本のお菓子はケニアでも人気だ。



2017年01月17日

くまモン塗り絵募集中！

日本リザルツは、昨年4月に発生した熊本地震を受けて、おまもりブックを作成した。おまもりブックには、ご当地キャラクターくまモンの塗り絵が付いている。本日、またまた日本リザルツに塗り絵が届いた。



日本リザルツ監事の水澤茂さんの奥様から。芸術家ということで、さすがプロ！の腕前だ。日本リザルツでは、現在、塗り絵を集めた展覧会を企画中なので、皆さまからの1枚をお待ちしている。

「子どもファースト」離婚講習会のお知らせ

「離婚と親子の相談室 らぼーる」では、1月21日（土）午前10時から「子どもファースト」離婚講習会を開催する。そのお知らせが本日の朝日新聞のマリオンに掲載された。

講習会は、「親が離婚しても子供の幸せを守る」をテーマに養育費や面会交流について理解を深めるための講座だ。

● 講座・講演

◆ 「子どもファースト」離婚講習会
21日、2月18日、3月18日、いずれも午前10時、千代田区霞が関3丁目の三久ビル5階、日本リザルツ会議室（国会議事堂前駅、03-6268-8744）。
「親が離婚しても子どもの幸せを守る」をテーマに養育費や面会交流について理解を深めるための講座。個別相談も（別料金、要予約）。2000円。各回先着10人。電話か、メール（ikenori@resultsjp.org）に住んでいる区市町村、氏名、電話番号を記し申し込む。

017年01月17日

フォローアップ会合(Kangemi Central)

本日、Kangemi Central のコミュニティ・ヘルス・ボランティア(CHV)を対象にしたフォローアップ会合を開催した。

まずコミュニティ・ヘルス・アシスタント(CHA)から、10月～12月の CHV の活動に関する総評を行った。Kangemi Central の中で、CHV が訪問した世帯数、結核のスクリーニング(問診検査)を行った人数、感染の疑いがありクリニックを紹介した人数、クリニックで実際に検査を受けた人数、陽性が確認された人数の5項目をグラフで確認。その中で、実際には陽性の結核患者が発見されたにも関わらず、CHV のレポート上ではゼロになっているなど、記入漏れがあることが判明した。

CHV によって報告の仕方にバラつきがあるということで、レポートの書き方について改めて講師から指導を行った。

また、CHV が直面している課題とベスト・プラクティス（最も上手くいった事例）、今後の展望についてグループで話し合った。課題としては、クリニックを紹介しても行こうとしない、ストライキ中で医師がクリニックにいない、結核の話をするために学校に打診しても、手続きが煩雑でなかなか進まない、などの意見が出た。



結核が疑われてもクリニックに行こうとしない理由としては、偏見を恐れているからというだけではなく、検査のために列に並ぶのが嫌だ、スタッフの対応が悪いから行きたくない、などの声もあり、ヘルスセンター 자체の改善の必要性を感じた。

最後に、CHV の方々に手提げをお渡しした。丈夫な厚手のキャンバス生地で、側面はリザルツカラーの赤色になっている。

ちなみに今日はカングミにケニアの政治家が訪問しており、会場隣の広場はお祭り騒ぎだった。明日は GichagiA の CHV を対象にフォローアップ会合を開催する。



2017年01月18日

[ニュース]復興大使に体操の内村航平氏

日本リザルツでは、復興事業の一つとして東北の岩手県釜石市で「こどもの相談室」を運営している。雪国で奮闘中の鈴木がんばれ！と、東京スタッフ一同いつもエールを送っているが、復興庁からさらに力強いエールがやってきそうなニュースを発見した。



「復興大使に体操・内村氏」

[ニュース]福祉とビジネス（上）親亡き後、自ら稼ぐには

日本リザルツが応援している感染症対策にもなる歯磨き粉、「オーラルピース」を企画・製造しているベンチャー企業のトライフが本日の朝日新聞に掲載された。

国内の障がい者数は790万人、働いても月に1万円程度の賃金しかもらえない障がい者が大勢いるというのが日本の現状。これを変えいかねばならない。

本日から上中下の3回シリーズで掲載される。

【手島大輔氏の最近の実績】

国際・アジア健康構想協議会ワーキンググループメンバーに選出

日本財団主催ソーシャルイノベーションフォーラム2016に選出

ジャパン ベンチャー アワード2015 最高位賞「経済産業大臣賞」受賞



日本リザルツでは、昨年の熊本地震の際、日本財団の助成で熊本市内の避難所を回り、オーラルピースを1000本お届けするプロジェクトを実施している。

2017年01月18日

[ニュース]裕福な 8 人の資産は下位 36 億人の資産と同じ

今日のニュースに衝撃的な記事が紹介されていた。

国際 NGO 「オックスファム」は 16 日、 2016 年に世界で最も裕福な 8 人の資産の合計が、世界の人口のうち、経済的に恵まれない下から半分（約 36 億人）の資産の合計とほぼ同じだったとする報告書を発表した。経済格差の背景に労働者の賃金の低迷や大企業や富裕層による課税逃れなどがあるとして、経済のあり方に抜本的な変化が必要だと訴えている。こうした格差が非常に問題になっている。ケニアに視察をした際もそうだった。ケニア政府は、 HIV/AIDS 対策に非常に力を入れているそうで、全ての患者に無償で薬は配布されるそうだ。

こちらのお墓。結核にかかった10歳の女の子は、貧しいゆえに病院にも行けず、薬も飲めず、亡くなつたそうだ。誰一人取り残さない世界を目指すためには、本当に困っている人の声なき声を拾うことが大切だ。



2017年01月18日

[ニュース]福祉とビジネス（上）親亡き後、自ら稼ぐには

日本リザルツが応援している感染症対策にもなる歯磨き粉、「オーラルピース」を企画・製造しているベンチャー企業のトライフが本日の朝日新聞に掲載された。

国内の障がい者数は790万人、働いても月に1万円程度の賃金しかもらえない障がい者が大勢いるというのが日本の現状…変えていかねばならない。本日から上中下の3回シリーズで掲載される。

【手島大輔氏の最近の実績】

国際・アジア健康構想協議会ワーキンググループメンバーに選出

日本財団主催ソーシャルイノベーションフォーラム 2016 に選出

ジャパン ベンチャー アワード 2015 最高位賞「経済産業大臣賞」
受賞

日本リザルツでは、昨年の熊本地震の際、日本財団の助成で熊本市内

で、15年の下位半分の資産額は上位2人の合計（約1兆7600億円）に相当するとした。今回も新興国で詳細なデータが追加されたことで、下位半分の資産額が世界全体の資産に占める割合は、15年の0・7%から0・2%に減った。

報告書は1998年から2001年の間に下位10%の所得は年平均3%も増えていないのに対し、1%の所得は1・82倍になり、格差が広がっていると指摘している。（ダボス＝吉川和也）

資産額「上位8人＝下位36億人」

国際NGO「オフタスファム」は1991～2001年に世界で最も裕福な人の資産額が、世界の人口のうち、経済的格差が最も大きいから半分（約36億人）の資産の合計とは同じだったとする報告書を発表した。経済学者の財政に労働者の賃金の低迷や大企業や富裕層による報酬過剰などがある

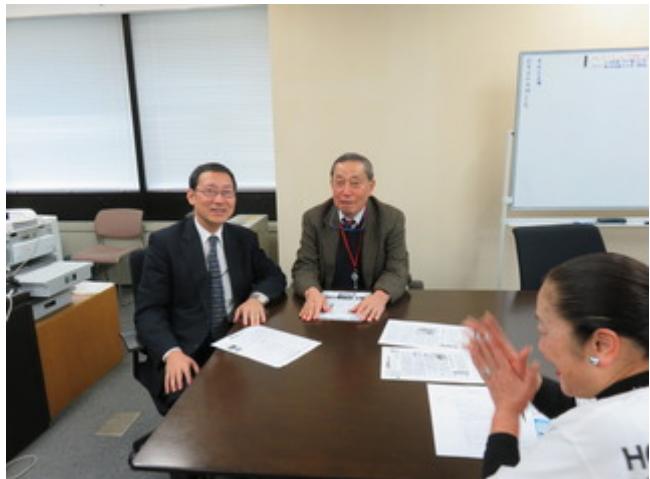
国際NGO「格差拡大」

の避難所を回り、オーラルピースを 1000 本お届けするプロジェクトを実施した。

2017 年 01 月 19 日

古知新博士と関係省庁・国會議員への訪問

日本リザルツの理事でもある古知新先生と日本リザルツ白須代表が、国際保健の提言のために、関係省庁・国會議員へ訪問をした。古知先生は、WHO のエイズ、結核、マラリア部長を歴任し、ジム・キム世界銀行総裁やマリオ・ラビリヨーネ WHO 結核部長(ローマ法王に謁見)の先輩にあたり、また、結核の治療システムである「DOTS 戦略」を取りまとめた方だ。その様子を写真でお届けする。



厚労省技術総括審議官 福田 祐典 様と。



厚労省保険局長 鈴木 康裕 様と。



内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人 様と。



内閣官房 内閣審議官 健康・医療戦略室 次長 藤本康二 様、内閣官房の皆様と。



午後は、東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教室教授の渋谷 健司先生もジョイン。

内閣官房 内閣審議官 山田安秀 様、企画官・医学博士 田中 剛 様と。

財務省主計局次長 可部 哲生 様と。



財務省主計局次長 茶谷 栄治 様と財務省の皆様と。

外務省国際協力局・地球規模課題担当・審議官 森 美樹夫 様と。



参議院議員 浜田 昌良 様と。

心に響く古知語録もたくさん飛び出した。
騙される方が悪い
真面目にやっているだけでは報われない
最初にカチッとやってないと軌道修正が大変
能力と人格、両方ないとね！

【古知 新（こち あらた）プロフィール】

東北大大学医学部医学科卒業。医学博士。ハーバード公衆衛生大学院修士。UNICEFにおいて専門家として戦時下のミャンマー、アフガニスタン、モザンビーク等で活動。その後WHOに勤務。

結核対策課長時代に DOTS 方式（直接監視下短期化學療法）を世界中に広げ、結核制圧に大きく貢献。

WHOの結核、エイズ、マラリア対策本部長を歴任。ジム・キム世界銀行総裁やマリオ・ラビリヨーネWHO 結核部長（ローマ法王に謁見）の先輩にもあたる。

現在、ジュネーブにてコンサルタントとして活躍中。特定非営利活動法人日本リザルツの理事も務める。



[ニュース]感染症対策で国際連携！

昨日付（19日）の日本経済新聞夕刊に興味深いニュースが掲載されていた。

米マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏率いるビル&メリンダ・ゲイツ財団が18日、日本政府などとともに、感染症の対策強化に乗り出すと発表した。今後大流行の可能性のある感染症の研究を進め、有効なワクチンの早期開発を支援するのが目的。日本政府も5年間で140億円を拠出するそうだ。こうした連携がきっかけで、感染症の更なる抑止が進むといいと思う。



残席 2 つ！まだ間に合います！！「子どもファースト」離婚講習会のお知らせ

「離婚と親子の相談室 らぽーる」では、1月 21 日（土）午前 10 時から「子どもファースト」離婚講習会を開催する。

この講習会は、「親が離婚しても子供の幸せを守る」をテーマに養育費や面会交流について理解を深めるための講座だ。

2017 年 01 月 20 日

ケニアのボランティアとは

ナイロビ市内スラム街で結核予防・啓発活動を行っている、ボランティア(CHV)の人たちがいます。この国のボランティアとは、どう受け止められているのか考えてみた。日本ではおそらく簡単に言うと”善意で人を助ける”だろうか。先日 CHV のフォローアップ会合を参観した。ケニアのボランティア活動に携わる人々は、どのような思いで関わっているのか。一方で各国にはそれぞれの国民性、習慣があり、当地に対する見方も先入観として持ってしまう。実際会合では、グループ討議や意見発表で熱く議論を交わす姿が見られ、少し認識も変わった。ただそれが、自己主張だけなのか、熱くなるのは当たり前なのか、今のところ分からぬ。しかし休憩の途中で、ある若者が話し掛けてきた。最近この地に移ってきばかりで、以前からやっている柔道をやれる場所がないか聞いてきた。その顔はとても私には素直に映り、ボランティアの顔になっているのではと思った。この顔がそうであるよう見て行こうと思う。

2017 年 01 月 21 日

旅便り vol20 "Essumba 特集 13

19日の 21 時(ケニア時間)に近所に住む男性(50 歳後半)が亡くなった。死因は結核・HIV/AIDS の二重感染。ケニア政府は、HIV/AIDS 対策に力を入れており、公立・私立問わず HIV/AIDS の診療、抗 HIV 薬の投与は無償だが、結核は無償ではない。現在(2017 年 1 月 21 日)、昨年末から始まったケニア全土の医療従事者によるストライキは続いている。

その影響で公立病院は閉まり、私立病院に患者が殺到し、薬が足りない状態になっている。特に抗 HIV 薬は無償ということもあり、圧倒的に薬の量が不足している。さらに、ケニア政府は今まで公立病院で働いていた医療従事者が、私立病院に流れるのを阻止しようと、私立病院に薬が流れることを抑えている。

ケニア全土で流通する薬のほとんどは輸入に頼り、政府が管理しているため、町の薬局はおろか、病院にすら、薬がない状況が続いている。彼は定期的に病院にいき、抗 HIV 薬の服用を怠らなかつたが、昨年末から抗 HIV 薬を手に入れることができなかつた。私は毎日、彼の家の横を走っていたが、HIV/AIDS と結核であることを隠そうと、彼は家から一步も出なかつた。19 日の夜にエドワードのもとに「亡くなつた」と連絡があり、その時に初めて「HIV/AIDS と結核であった」と、彼の親戚が打ち明けてくれるまでエドワードも知らなかつたとそだ。

【御礼】目標金額達成いたしました！

先日、無事に目標金額 100 万円を達成し、クラウドファンディングが終了しました！

ケニア最貧困地域でスナノミ症を治療・予防し、生活改善へ！

リターンをご購入いただいた皆さま、Facebook・Twitterなどでページをシェア・拡散してくださった皆さま、ご友人に挑戦の事を広めてくださった皆さま、ひそかに応援してくださっていた皆さま。沢山の皆さんに支えられ、励ましていただきました。そしてついに「スナノミ症撲滅」のスタートラインに立つ事が出来ました。本当にありがとうございました。いくら感謝の言葉を並べても、伝えきれません。しかし、今スタートラインに立ったにすぎません。これからし「スナノミ症撲滅」に向け全力で頑張ります。ブニヨレ地域での「スナノミキャンペーン」実施の予定は3月です。ご支援いただいた皆さんには、現地住民のコメントを添えて、サンクスメールを送らせていただきます。引き続き温かい応援をよろしくお願ひ致します。最後に、皆さん、本当にありがとうございました！



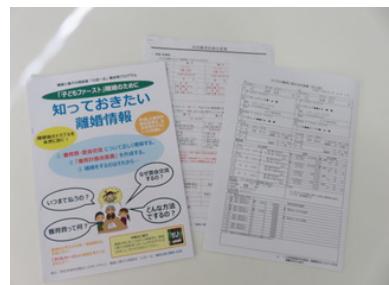
2017年01月21日

「子どもファースト」離婚講習会を開催

離婚と親子の相談室らぼーるで「子どもファースト」離婚講習会を開催した。

「親が離婚しても子供の幸せを守る」をテーマに養育費や面会交流について理解を深めるための講座だ。

講座で使ったオリジナル冊子と養育計画書



離婚の種類、養育費についてや、ADRの詳しい説明などが続いた。参加者の皆さまからは、下記のようなご感想や質問が活発にされていた。

- ・親権と監護権の違いがよくわかった。
- ・理想的な面会交流の合意をどのような形で作っていったらいいかを整理できたらいいな。
- ・今後具体的な共同養育の計画を立てていきたい。
- ・妻側が再婚してしまった場合の子どもとの関わり方ってどうなるんだろう。子どものための最善の関わり方ってどういう感じなんだろう。
- ・子どもの成績表・健康診断の結果などを共有し合える仕組みがほしい。

講師の『「戸籍に親権者と書かれること」よりも「親として果たしていく役割をきちんと果たす」のが大事。』『子どもも大人も、その時々で気持ちは揺れる』という言葉が心に残った。

[ニュース]感染症対策で国際連携を！

昨日付（19日）の日本経済新聞夕刊に興味深いニュースが掲載されていた。

米マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏率いるビル&メリンダ・ゲイツ財団が18日、日本政府などとともに、感染症の対策強化に乗り出すと発表した。今後大流行の可能性のある感染症の研究を進め、有効なワクチンの早期開発を支援するのが目的だ。日本政府も5年間で140億円を拠出する。

こうした連携がきっかけで、感染症の更なる抑止が進むといいと思う。



017年01月22日

釜石生活⑩～支援者研修会～

1月21日（土）10:00～12:00、子どもに関わる職業の方々を対象に、子どもの気持ちを理解し、支援の仕方を学ぶ研修会を開催した。講師は宮城県からお呼びした、臨床心理士の石垣秀之先生。



石垣先生は、スクールカウンセラーとして16年間勤務され、震災後、トラウマ治療を専門とする相談機関である株式会社 i プロデュースを設立された。資格をたくさんお持ちで、臨床心理士の他に、臨床動作士、臨床発達心理士、心理リハビリテーションスーパーバイザー、行政書士、鍼灸師資格をお持ちだ。

当日は、朝から雪が降る中、スクールカウンセラー、療育関係者、保育士、養護教諭、民生委員・児童委員、放課後支援員の方々がご参加くださいました。

心理学的な知見に基づいた説明と、具体的、実践的なアドバイスの数々に、参加者は一生懸命、配布資料の横にコメントを書き加えていた。アンケートの回答に、「保育園、幼稚園の先生方や保健師さん、乳幼児のママたちは全員受けた方がいい。



0歳から、未就学の子どもの心理や発達について、親も大人も知らなすぎる。知ってたら、虐待減るかも」というご意見があった。もっともっと大勢の方々に参加していただきたい。

[ニュース]最貧国支援に 6000 億円

今日の日本経済新聞に面白い記事が掲載されていた。日本が最貧国支援に 6000 億円支援するそうだ。具体的には、財務省が世界銀行グループで最貧国の開発を担当する国際開発協会（IDA）に 6000 億円規模の投融資を実施する。こうした動きが、誰一人取り残さない社会の実現につながるといふと思う。



[ニュース]歯科衛生士不足が深刻に

今日の日本経済新聞に気になるニュースが出ていた。

口内のケアを担う歯科衛生士の不足感が強まっているそうだ。様々な病気の予防にもつながるケアは特に高齢者に対して重要で、衛生士の不足は健康や医療の先行きに暗い影を落としている。

こうした日本を含め、アジアの医療体制の課題について、日本リザルツでもセミナーを開催する。

2017年1月26日（木）、日本リザルツでは、今回で通算第15回目の開催となる「サンキューセミナー しろくまカフェ編」を開催する。

■日 時：2017年1月26日（木）10:30～12:30

■会 場：日本リザルツ事務所（千代田区霞が関 3-6-14

三久ビル 5F）

■アクセス：<https://goo.gl/maps/hMOtc>

東京メトロ 国会議事堂前駅 徒歩4分 溜池山王駅 徒歩5分

■主 催：特定非営利活動法人 日本リザルツ

■プログラム：

10:30-10:40 医師 久保伸夫 氏

10:40-12:20 日本リザルツ理事長 浅野茂隆 氏

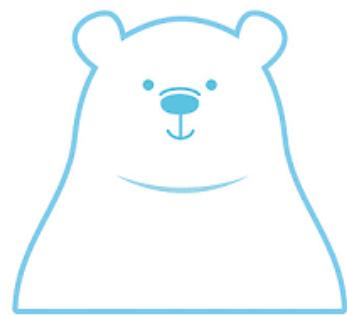
12:20-12:30 質疑応答

The image shows a vertical strip of the Japanese newspaper Nihon Keizai Shimbun (Japan Economic Journal). The main title is "歯科衛生士不足 介護に影" (Dental hygienist shortage casts a shadow over care). Below the title, there is a photograph of a dental hygienist working. To the right of the photo is a bar chart titled "CURRENT SCOPE" comparing the number of dental hygienists per 100,000 people in various countries. The chart shows Japan has the fewest dental hygienists per capita. The article discusses the challenges of an aging population and the resulting demand for dental services.

国	歯科衛生士数 (人)	人口 (人)	歯科衛生士数/人口 (人/10万人)
日本	約10万	約1億3千万	約7.7
米国	約250万	約3億2千万	約7.8
カナダ	約15万	約3千万	約5
オーストラリア	約10万	約2千万	約5
韓国	約10万	約5千万	約2
中国	約10万	約14億	約0.7

冒頭、医師の久保伸夫氏からは「ASEANへの医療展開の実際と問題点について」お話をいただく。

メインスピーカーはしろくま先生こと日本リザルツ理事長浅野茂隆氏！



高齢者の定義について

高齢者の定義を「75歳以上」としませんか？という動きがある。大内尉義 虎の門病院院長には、2015年11月に大変お世話になった。それはガザから3人の中学生と校長先生をお呼びした時のことだった。3人の将来の夢はお医者様になることと知った白須は、日本の先端医療の現場を見せてあげたいという思いを渋谷健司先生に相談し、渋谷先生のお取り計らいによって、私たちは大内院長にお目にかかる機会をいただいた。その日、大内院長はじめ虎の門病院の皆さんには、本当に親切に接していただき、ガザの子どもたちにとって人生で忘れ得ない大切な一日になった。冒頭の記事にあるとおり、大内院長は「日本老年学会、日本老年医学学会という老年研究の権威たちによるワーキンググループ（WG）」の座長をおつとめで、そのWGが「75歳以上」を高齢者と区分することを提言した。日本リザルツにも代表をはじめ何名か60代の職員、ボランティアがおりますが、（基礎学力は元より）私（50代）よりもはるかに頭の回転が速く、瞬発力、行動力、体力、記憶力、そのどれをとっても私より優れている。

一般的には、個人差もあるし、病気にかかるリスクも高まる年齢かと思うが、リザルツに協力してくださる60代、70代の方々は皆さん、見た目もお若くはつらつと第一線で活躍されている。

大内院長がおっしゃるように、「高齢者」とひとくくりにせず、働く人はいきいきと働き続けられる、そんな社会が健全で、私たちが目指すべき社会なのだと思う。

2017年01月23日

全国から靴が続々と！

日本リザルツでは、Q&AAA（トリプルエー）+プロジェクトと題し、国会議員の先生方、中央官庁の方、そして市民のみなさまから広く運動靴を集めている。Yahoo!ニュースの効果もあり、全国から運動靴が続々と集まっている。日本リザルツのオフィスは箱、箱、箱の山！というわけで、今日はスタッフで、シューズの整理を行った。

住所とお名前を書いてくださった方には、お礼のお手紙をお送りさせていただいています。

応援のお手紙も寄せられている。

まだまだ、日本リザルツでは運動靴を集めています。1人でも多くのみなさまからの一足をお待ちしている。



2017年01月23日

[ニュース]福祉とビジネス（中）

日本リザルツが応援している感染症対策にもなる歯磨き粉、「オーラルピース」を企画・製造しているベンチャー企業、トライフの朝日新聞連載の三回シリーズの第二回目（中）をご紹介。

どんどん飛び込んでいくことの大切さが伝わってくる。



2017年01月23日

釜石生活⑫～子どもの気持ち学習会～

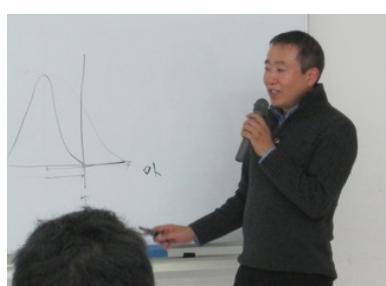
1月21日（土）14:00～16:00、今度は保護者の方々を対象に、子どもの気持ちの理解と、親として保護者としての接し方、信頼関係（愛着）の結び方を学ぶ研修会を開催した。

講師は午前中と同様で、臨床心理士の石垣秀之先生。

ご夫婦でご参加された父親は「一緒に参加できてよかったです。父親の役割についても教えていただき、改めて認識できた。また、夫婦の関係が子どもの精神の安定につながると知り、夫婦喧嘩は控え、何でも話し合って、仲良くしていきたいと思った」と感想を述べられた。午前中の支援者研修も実践的だったが、午後の保護者向けのお話しさは、「叱りたければ3回褒めましょう」などのように、より具体的で、愛着の説明時にはアヒルの親について歩く子あひるたちの動画を見たり、楽しく受講できる内容、構成だった。

宮城県亘理郡から来釜され、午前、午後の研修・学習会の講師をされ、帰りはちょうどよい時間の釜石線がなく、1時間半も駅付近で待たれて、ようやく乗られた釜石線が遅れ、新幹線もお待ちになり、ご帰宅は深夜になってしまったそうだ。

2月16日（木）、22日（水）は、放課後支援員のための研修会、そして、今回の続きは3月4日（土）午前・午後に予定されている。



2017年01月24日

[ニュース] 福祉とビジネス（下）

1 日本リザルツが応援している感染症対策にもなる歯磨き粉、「オーラルピース」を企画・製造しているベンチャー企業であるトライフの朝日新聞連載の三回シリーズの第三回目のご紹介。

連載は今回で最後だが、トライフの活動はここからが正念場！



2017年01月26日

サンキューセミナー しろくまカフェ編の第2回を開催

本日1月26日（木）、日本リザルツのオフィスで、通算第15回目となるサンキューセミナー～しろくまカフェ編～が開催された。朝の早い時間からのスタートにも関わらず、今回もたくさんの皆様にお越しいただいた。



今回、司会を務めてくださったのは、医療ジャーナリストで医療コンサルタントの田辺功氏。

専門的な用語も多く登場し、一部難しい内容もあるセミナーではあったが、田辺氏の手腕で質疑応答も活発に行われ、とても和気藹々とした雰囲気の会になった。

今回のゲストスピーカーは二人。

一人目は、政府の国際・アジア健康構想協議会のワーキンググループのメンバーでもある、医師の久保伸夫氏。



久保先生からは「ASEANへの医療展開の実際と問題点について」のお話をいただいた。

アセアンライセンスの取得を目指し、各国の医師免許とクリニックの認可を求めてカンボジア、ミャンマー、へ。東南アジアへの医療機関の進出時の苦労話を交えての発表は大変興味深く、会場の笑いを誘っていた。

現在、医師免許の相互認証制度を進めようと奮闘中のことだが、壁は言語とのこと。また、ASEAN や TPP の発足で、医療制度についても緩和が期待されたものの、トランプ政権が立ち上がったので暗礁に乗り上げてしまったとも。

今後、技術と法律や制度の間で、日本とアジアでどう取り組みを進めていくかが課題です、と締めくくられた。

なかなか聞けない実体験を交えた貴重なお話だった。

そして、メインスピーカーは前回に引き続き、「もっと浅野先生のお話を聞きたい！」という皆様からのご要望にお応えし、浅野茂隆氏。

「病気の要因は 80%が環境要因である。免疫療法が有効なのだが、日本の医療は疾病ごとで受け付けをしているのが問題である。これを今、変えようと動いている。」というお話から始まり、心に刺さる言葉が今回もたくさんあった。

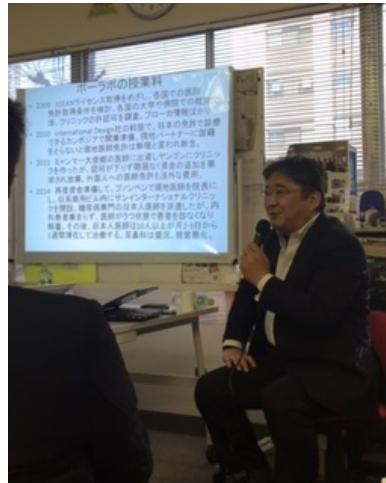
「人類も地球の寄生虫」

「医療は起こる前に見つけましょう。病気は見つかった時には、既に複雑になってしまっている」

「ビックデータでの解析は、多様になり過ぎてしまった状態であるので実は難しいと思われる」

「若い人にバトンタッチをしていきたい」

「日本は今、置いてきぼり」



2017年01月27日

hello life! 被さい地復興プロジェクト

hello life!被さい地復興プロジェクトは、株式会社アソボット様が行っている「寄付する機会をプレゼントする」をコンセプトにしたNPOサポートプロジェクト。寄付文化のすそ野を広げることを目的としたプロジェクトとのこと、NPOにとって大変ありがたいプロジェクトだ。

毎年このプロジェクトからご寄付とメッセージカードをいただいている。

今年は宮城県多賀城高等学校 3年生の生徒の皆さんからいただいた。

弊団体からは「お礼のメッセージカード」に現在ケニアで行っている「結核予防・啓発活動の拡大支援事業」の写真を載せて送った。



2017年01月27日

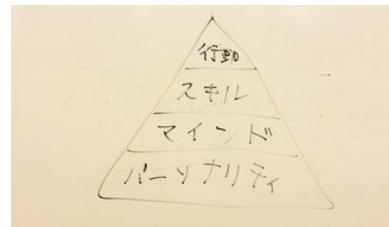
スタッフや専門家との関係

現在ナイロビ市内のスラム地区で手掛けている、保健活動の支援のため当地に来ている。ボランティアの人たちについては、先日のブログで少し触れたが、我々としては彼らと活動を共にして、活動の実態や課題、更に彼らの思い等を直接聞いて、コミュニケーションを図りたいと希望しているが、治安の面からも頻繁に活動地には入れないジレンマがある。これをカバーしてもらえる存在が、ボランティアの人たちに指示したり、活動内容を管理するスタッフや、研修会などで講師を務める専門家の方々。我々の方針、考え方などを理解し、的確にボランティアの人たちに伝えてもらい、逆に彼らの考え方、不明な点などを我々に伝えてもらうことで、間接的にでも活動の主体であるボランティアの人たちと、より密接なコミュニケーションを構築することができると思う。そんなスタッフや専門家とどのように関係を作り上げていくか、余り仲良くしすぎてもいけない、一定の距離も必要、なかなか難しい中で、お互いの信頼感を目指していくことで、道が開けてくるのではと思っている。

2017年01月27日

[感染症対策クラウドファンディング]GHIT、内閣官房との定例ミーティング

GHIT・内閣官房とのクラウドファンディング定例会議を行った。ミュージックセキュリティーズの小松社長もご参加され、今後の進め方、新たなアイディア、ストーリーメイクなどについて、ざっくばらんに話し合いが行われた。途中、GHITの佐藤氏が「最近聞いたいい話」ということで、突然ホワイトボードに以下のような図を描いて説明してくださいました。



「スキルとマインド、パーソナリティが揃って、初めて「行動」に表れる。行動できるグローバルな人材を育てるようなプロジェクトってどうですかね」みんなが主役になれるような、しかも打ち上げ花火的にその瞬間だけ盛り上がるものではなくて、未来にわたって役に立つ、そんな持続的なクラウドファンディングにしたい。



Global Health Innovative Technology Fund

内閣官房
Cabinet Secretariat

RESULTS
the power to end poverty

住職合体

ケニアは今乾季に当たり、晴天が続いている。晴れていれば気持ちは良いのですが、一方で水不足が心配だ。ナイロビ市内ではまだ普通に使えて、断水はないが、地方では深刻なところも出てきている。飲み水は安心なミネラルウォーターを持ち歩く人が多く、我々の事業（結核予防・啓発活動）の最前線で活動するボランティアの人たちも、バッグに入れて担当地域の家庭を回っている。彼らボランティアを統括し支えていくために、現地スタッフや専門家たちと計画を練り、改善策を協議しながら事業の運営に当たっている。これらの会議は、現在事務所として借りている、当団体とも協力関係にあり、ケニアのNGO団体組織であるKANCOの会議室で開くことがある。ただ、土日祝日が使えないことや夕方も遅くまで残れず、利用機会が制限されている。そこで時間の制約なく仕事が出来るよう、また経費削減のためにも、自分の宿舎を事務所兼用とすることで検討している。このような形態をとっているNGOもいくつかある。職住接近ではなく、職住合体でOn/Offの区別が曖昧にならないよう注意が必要だ。

2017年01月27日

[ニュース] 親権訴訟、「面会交流」重視の一審覆す（東京高裁）

昨日、注目の裁判の判決が出た。

昨年の3月の一審で、千葉家裁松戸支部判決は、離れて暮らす親と子どもとの「面会交流」に積極的な父親に親権を認めたのだが、昨日の二審で東京高裁は、「これまでの養育状況や、子の現状と意思を総合的に考慮すべきだ」としてこれを覆した。親子と離婚の相談室らぼ～るでは、面会交流の課題を解決すべく、「親が離婚しても、子どもの幸せを守る「子どもファースト」離婚のための講習会」を開催している。2月、3月も離婚、親権、共同養育、養育費についての疑問にお答えする。

■内容

- ① 養育費・面会交流について正しく理解する。
- ② 「養育計画合意書」を作成する。
- ③ 離婚をするのはそれから…

■開催日時

2月18日（土）、3月18日（土）のAM 10:00～12:00

■場所

日本リザルツ会議室

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-6-14 三久ビル 501

017年01月28日

[速報]Gavi と IFRC（国際赤十字）がWHOへ要請を

日本リザルツは、Gavi ワクチンアライアンスのキャンペーン事務局をしている。

今日は、興味深いニュースが飛び込んできた。現在開かれている WHO の理事会において、国際赤十字赤新月社連盟（IFRC）と Gavi が要請を行った。

抜粋は以下の通りです。

IFRC と Gavi は、予防接種に関する戦略的諮問委員会（Strategic Advisory Group of Experts: SAGE）に対して、グローバル・ワクチン・アクションプラン（Global Vaccine Action Plan）の進捗が遅いことに懸念を表明しています。ワクチン接種を受けられない 50%以上の子どもたちは、Gavi の支援対象国から外されている国です。また、全ての子どもがワクチン接種を受けられるよう、ワクチンや医療体制の格差是正も必要です。その上で、

- 1.市民社会、市民団体のリーダーシップ拡大とサポートをすること。
- 2.資金協力はもちろん、ワクチン接種を続けられるような経済体制を整えられるように、開発途上国へガイダンスを実施すること。
- 3.効果的なフレームワークを策定するために、専門家集団を立ち上げること。

という 3 つの提案をしている。



[Gavi]応募締め切りは3/15 INFUSE イニシアチブの案内

今回は、Gavi からのお知らせをお届けする。

この度、Gavi ワクチンアライアンスでは、途上国での予防接種に貢献するイノベーションのグローバル展開を支援する **INFUSE** というイニシアチブを立ち上げた。

これは毎年異なるテーマのもと、予防接種関連のイノベーションをスケールアップするため、イノベーションを保持する個人・企業等と、投資家、Gavi や WHO、WEF 等の専門機関、各国の政治的指導者とを結びつけるプラットフォームだ。2017 年のテーマは予防接種の周知・接種率向上と保健サービス供給の効率をあげるためのイノベーションです（このイニシアチブは既に実用化されているものが対象で、研究開発段階の支援は行わない）。昨年採用されたイノベーションは 7 つあり、どのようなものか事例も記載されている。例えばインドの一部の地方では、生まれた赤ちゃんにネックレスを送る習慣がありますが、そのネックレスに予防接種歴含む医療情報を組み込むシステムを開発した会社を現在 INFUSE が支援している。

もし上記のようなイノベーションをお持ちで、途上国での実用化に向けてチャレンジしたいというお知り合いの方がおられればこのメッセージを転送くだされば幸いだ。今年のテーマのもとではデータ管理、コールドチェーンなど、さまざまな新規テクノロジーが応募可能となっている。



2017 年 01 月 29 日

釜石生活㉙ ~子どもの養育 弁護士相談会~

1 月 28 日（土）14 時～16 時、「青葉通り こどもの相談室」は、弁護士相談会を開催した。1 枠 30 分で 4 枠の事前予約制とした。子どもの養育に関する弁護士相談会なので、当日のご相談後も、相談室として関わることになるだろうということで、私も同席した。相談者同士が顔を合わせなくて済むように、控室も用意して、会場の入口の表示板もひっそりと地味にした。相談者が安心・安全な環境でお話しいただけることは、相談室としての大原則だ。担当していただいた弁護士は、加藤静香先生。加藤先生は、相談者の理解度に合わせて、平易な言葉で分かりやすい説明をしてくださる。また、相談者の質問に対して、迷ったり、考え込まれたりするシーンが一度もなく、相談者に寄り添う誠実な笑顔ですぐに的確にお答えになられる。また、相談者が相談シートを記入される間に、それまで聴き取った内容で「離婚協議書」を作成されるので、相談者も私も驚いた。釜石に着任されて 3 年半になるので、3 月以降は後任の先生への引継ぎとサポートをされるので、それをお聞きになった相談者は寂しそうだった。相談室としても、新しく着任される先生とも考え方を共有し、釜石や近隣の子どもたちの未来が輝くような環境づくりをしていきたい。



2017年01月30日

リザルツ女史、いざパリへ！

最近、女性率が高く活気あふれる日本リザルツオフィスだが、今週 1 週間は、少しオフィスが静かになるかもしれない。

スタッフ池田と長坂が、米国リザルツの会議と研修のため、パリに出張する。池田が、参加するのは“Child Health Meeting”と“Senior Media Training”。池田は、米国リザルツの会議参加は初めて。担当している Gavi や栄養に関して、日本が実施している活動を報告くる。長坂は、“Public Speaking & Media Skills Training for TB R&D Advocacy” という研修に講師として参加する。内容は、マスコミや大衆にリザルツの活動をより取り上げてもらうために、どのようなメディアワークや広報活動をすればよいのか？というものだ。各国の結核アドボカシーを行っている担当者向けに行われる。日本リザルツは、メディアワークが活発。新聞や Yahoo!ニュースでの掲載が止まらない。世界の仲間たちに少しでも、私たちの取り組みが知ってもらえるよう、頑張ってくる。

